

新まちづくり計画 ( H16 ~ 18 ) 事業総括調書

施策体系コード	2-3-1	事業名	札幌市発達医療センター - の機能の充実
担当	子)児童福祉総合センター - 発達医療センター - 松澤 祥子 622-8640		
全体計画 ( 当初 )			
事業内容	障がいのある子どもの早期診断・療育の充実を図るため、発達医療センター - において新たに精神科を診療科目に追加して自閉症児の療育等の取り組みを進めるとともに、難聴幼児の言語聴覚療法のための遮音効果のある検査・指導室の拡充など施設の一部改修を行う。		<年度別の事業内容> 17年度 検査・指導室の遮音工事
	平成16年度事業内容 ( 決算 )		平成17年度事業内容 ( 決算 )
事業内容 ( 量・場所・規模等 )	<p>1 発達の遅れや心身の障がい疑われる児童を対象に、早期診断、早期療育、家族支援などを行う。</p> <p>(1)小児科、整形外科、耳鼻咽喉科、眼科、歯科の診療科で医学的診断と治療を行う。</p> <p>(2)理学療法や作業療法、言語聴覚療法などのリハビリテーションを行う。</p> <p>(3)保育や育児相談、障がいや健康面の相談、福祉に関する情報提供などを行う。</p> <p>2 言語聴覚士1名の配置(平成16年4月から)及び第1種非常勤心理判定員の職の設置を行った(平成16年8月から)。</p> <p>3 関係機関との医療連携を行う(養護学校2校、整肢園2カ所、知的障がい児通園施設1カ所の診療業務)。</p> <p>4 職員総数31人:職員21人(小児科医2人、整形外科医1人、看護師6人、事務職1人、作業療法士3人、理学療法士4人、言語聴覚士2人、保育士2人)、第2種非常勤4人(言語聴覚士3人、臨床検査技師1人)、第1種非常勤6人(薬剤師1人、放射線技師1人、医師3人、心理判定員1人)</p> <p>5 平成16年度利用人数:1,260人</p>		<p>1 発達の遅れや心身の障がい疑われる児童を対象に、早期診断、早期療育、家族支援などを行う。</p> <p>(1)小児科、整形外科、耳鼻咽喉科、眼科、歯科の診療科で医学的診断と治療を行う。</p> <p>(2)理学療法や作業療法、言語聴覚療法などのリハビリテーションを行う。</p> <p>(3)保育や育児相談、障がいや健康面の相談、福祉に関する情報提供などを行う。</p> <p>2 関係機関との医療連携を行う(養護学校2校、整肢園2カ所、知的障がい児通園施設1カ所の診療業務)。</p> <p>3 職員総数31人:職員21人(小児科医2人、整形外科医1人、看護師6人、事務職1人、作業療法士3人、理学療法士4人、言語聴覚士2人、保育士2人)、第2種非常勤4人(言語聴覚士3人、臨床検査技師1人)、第1種非常勤6人(薬剤師1人、放射線技師1人、医師3人、心理判定員1人)</p> <p>4 指導室2カ所の戸及び床の遮音工事を実施。</p> <p>5 平成17年度利用人数:1,109人</p>
	平成18年度事業内容 ( 決算 )		評価 ( 成果 )
事業内容 ( 量・場所・規模等 )	<p>1 発達の遅れや心身の障がい疑われる児童を対象に、早期診断、早期療育、家族支援などを行う。</p> <p>(1)小児科、整形外科、耳鼻咽喉科、眼科、歯科の診療科で医学的診断と治療を行う。</p> <p>(2)理学療法や作業療法、言語聴覚療法などのリハビリテーションを行う。</p> <p>(3)保育や育児相談、障がいや健康面の相談、福祉に関する情報提供などを行う。</p> <p>2 関係機関との医療連携を行う(養護学校2校、整肢園2カ所、知的障がい児通園施設1カ所の診療業務)。</p> <p>3 職員総数31人:職員21人(小児科医2人、整形外科医1人、看護師6人、事務職1人、作業療法士3人、理学療法士4人、言語聴覚士2人、保育士2人)、第2種非常勤4人(言語聴覚士3人、臨床検査技師1人)、第1種非常勤6人(薬剤師1人、放射線技師1人、医師3人、心理判定員1人)</p> <p>4 平成18年度利用人数:1,256人</p>		指導室の遮音効果が向上し、言語聴覚療法のための療育環境が整備された。
			課題
		早期療育を必要とする乳幼児が毎年一定数新規に受診する一方、学齢期以後で機能訓練を受けている児童が全体の約半数となっている。療育・訓練ニーズの増加に対応するため、さらなる機能訓練体制の充実が必要である。	
19年度以降の方向性・事業の予定			
機能訓練ニーズの増加への対応と診療体制の充実について引き続き検討していく。			

